

2 パソコンの利用環境

現在、パソコンやインターネットは、私たちの日常生活だけではなく、学修・研究の場でも不可欠なものになっています。

本学の演習室事情

多数のパソコンを設置した演習室があります

- 本学には、多数のパソコンを設置した演習室がいくつかあります。学生が個人で購入するには高価な専用ソフトを使った授業や、全員が同一のパソコン環境で演習を行う必要のある授業などを行うことが目的です。
- 学生が自由に個人で利用できるのは授業の空き時間のみなので、いつでも利用できるわけではありません。
- そのかわり、本学では無線 LAN によるキャンパスネットワーク環境が、ほとんどすべての校舎や食堂で利用できるため、自分のパソコンを持っていれば、いつでも自由に大学のネットワークを利用し、インターネット環境を使うことができます。レポートなどの印刷に使う共用のプリンタも各校舎に設置されています。
- また、受講者の各座席に電源と情報コンセントを備えた教室もいくつか用意されています。
- 図書館の自習用デスクにはほぼ全て電源コンセントが備えてあり、無線 LAN も利用できます。

推奨パソコン

軽くて十分な性能を持っているノート型パソコンが便利です

- 前述のとおり、パソコンを携帯する必要性は増すばかりです。
- パソコンは精密機械なので、毎日持ち運ぶとなると、

何らかのトラブルが起こる可能性が高まります。

- そのため、本学では推奨パソコンとして、ノート型で下記のメリットがある機種を選んでいきます。

- (1) 大学に持ってきて授業で利用したり、レポートを書いたり、調査やデータ分析をするために使いやすい
- (2) 4年間使用するのに十分な性能をもっている
- (3) 軽くて持ち運びが容易でかつ丈夫である
- (4) 長時間連続使用できるバッテリーを備えている
- (5) 4年間の故障に対する補償がついている

学内にはサポート・デスクが設けられ、在学中はそこで故障の修理をいつでも受けられます。

- 推奨パソコンは、学部・学科によって OS が Windows または Mac になっています。Windows が推奨パソコンになっている学部では Mac が使えないかというと、そうではありません。それぞれの OS に固有のソフトウェアもありますが、多くの場合 Windows 版も Mac 版もあるソフトが大半ですし、同じような機能を持つソフトウェアがその OS 用にあります。

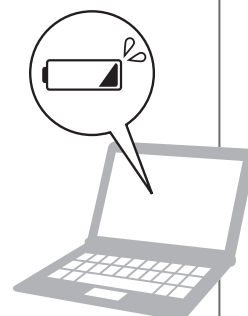
- なおアメリカの教育機関などで普及が著しい Chromebook という低価格なノートパソコンが日本でも販売されていますが、普及はまだままだの状態です。基本的にネットに接続した状態で使うことが前提となっており、Windows や Mac とは違うタイプのコンピュータです。ソフトもそれらと共通なものは主要なソフトに限られます。ただし安価で長く使っても性能が落ちないというメリットもあり、本来学校教育での利用には適した部分もあるので、教師や教育機関を目指す学生は注目しておいてもよいでしょう。

Column

ノート型パソコンの電源を確保しよう

玉川大学モデルはバッテリーが長時間使える機種が選ばれていますが、それでも講義が連続で行われる場合は、最後の方で電源が切れて使えないという事態になりかねません。教室の電源コンセントを利用するにも数が限られています。学内には、各机にノート型パソコン用の電源コンセントを用意している教室もありますが、多くはそうした設備を設置できていません。現在のところ学生が取れる最適対応策は下記のとおりです。

- ① 空き時間に、なるべくこまめにノート型パソコンの充電しておくこと
 - ② バッテリーが切れそうときは、なるべく教室の中の電源コンセントの近くの席を確保すること
 - ③ 必要であれば、電源コンセントの延長コードを持っていること
- いずれにせよ、計画的に充電しておくことをまず第一にお勧めします。



デスクトップ型のパソコン

同価格帯のノート型に比べ 高度な性能を持っています

- デスクトップ型パソコンは、持ち運びができないという大きなデメリットがありますが、ノート型に比べていくつかのメリットもあります。
 - (1) 同じ価格帯のノート型に比べて CPU 等の性能が高性能であり、大規模な計算処理が必要な動画の編集や高度な画像の処理、あるいは複雑な科学技術計算を行うのには適しています。
 - (2) 最近は大型の液晶モニタが安価に購入でき、それを接続すれば作業性は向上します。
また複数のモニタに表示させることもできるので、モニタの資料を見ながら別のモニタで作業するなど効率的な作業が可能になります。
 - (3) 必要に応じてハードディスクを増設したり、DVD ディスクを新しいブルーレイディスクに入れ替えたり、動画のキャプチャ機能を追加したりなどが比較的安価で容易にでき、拡張性に優れています。
- 2 台以上のパソコンを使うときには、それぞれで作業した結果を共有することが大切です。以前は USB メモリ等にデータを入れてコピーしながら使っていました。しかし、USB メモリは紛失や抜き忘れが多く、セキュリティの観点で弱点があります。そこで最近は dropbox や OneDrive、Google ドライブなどに代表されるオンラインストレージサービスを利用することで自動的に同期する方法が普及してきました。本学では、学生全員に OneDrive のアカウントが付与され、そのサイズも 1 TB（1 テラバイト）と、十分なものとなっています。
- こうしたオンラインストレージサービスはパソコン間だけでなく、スマートフォンなどともファイルを同期することができるために、複数の情報機器を所持している人にとってこれを使いこなすことは非常に有用です。ただし、オンラインストレージサービスに保存したデータは、各自で責任をもって管理してください。

タブレット型の情報デバイス

資料の閲覧やネット検索に 向いています

- 最近は、スマートフォンやタブレット型の情報デバイスの普及が急速に進んでいます。こうした機器は、軽く操作方法も簡単で、Web の閲覧やメールの送受信、資料の閲覧などには十分に利用できます。
- ただし、基本ソフトが iOS や Android といった、Windows とは異なる OS なので、Windows のソフトウェアはそのまま利用できません。また、キーボードはタッチパネルを利用しているため、本格的なキーボードに比べると高速なタイピング等には向きません。
- したがって授業で使う資料の閲覧やネット検索には使えますが、文書やプレゼンテーション、表計算などの編集・作成・処理等では、まだパソコンにはかないません。あくまでもサブマシンとしての利用と考えたほうがよいでしょう。
- 一方で、こうした機器のもう一つの目的は、書籍や雑誌などのオンラインでの入手と閲覧の機能です。それらの書籍や雑誌を膨大な冊数保存することができます。大学の教科書の多くが iPad や Android タブレットあるいは Amazon Kindle のような電子ブックリーダーに入っていて、大学にはそれだけを持ってくればよいという時代が来つつあります。